君待つと――万葉・古今・新古今 (1)

和歌の基礎知識

和歌は五音と七音を基調としており、代表的な形式に短歌と長歌がある。

・**短歌**…五・七・五・七・七の三十一音の歌。
・**長歌**…五・七を三回以上繰り返し、最後を多くは七・七で結ぶ歌。
　長歌の後には**反歌**とよばれる歌が添えられ、長歌の意味を要約したり補足したりする。

音数が五音・七音の定型となっていないものもあり、音数が定型より多いものを**字余り**、定型より少ないものを**字足らず**という。

●句切れ

一首の中の意味上の切れ目を句切れという。短歌の句切れには、**初句切れ・二句切れ・三句切れ・四句切れ・句切れなし**、などがある。

(例) 五・七(初句・二句) ／ 五・七・七(三句・四句・結句) …二句切れ

句切れの位置によって、歌のリズムは異なる。
・五七調…二句切れ・四句切れ。万葉調。
・七五調…初句切れ・三句切れ。古今調・新古今調。

和歌の表現技法

●枕詞

特定の語を導くために、その直前に置かれる言葉。主に五音で、直後にくる言葉が決まっている。通常は訳さない。後の語を修飾したり、リズムを整えたりする。

・おもな枕詞
しろたへの→衣・袖・雲 など　　**ひさかたの**→光・日・空 など
たらちねの→母 など　　**ちはやぶる**→神 など

●序詞

ある語句を導くために、その前で述べる言葉。歌ごとに創作され、音数や直後にくる言葉に決まりはない。枕詞より長いものが多い。省略せずに訳す。

(例) 多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの児のここだ愛しき
※「多摩川にさらす手作り」が「さらさらに」を導く。

●掛詞

一つの語に二つ以上の同音の言葉の意味を重ねたもの。

(例)「ながめ」＝「眺め・長雨」

確認テスト

(1) 現代語訳を参考に、次の歌の句切れを漢字で答えなさい。

見わたせば花も紅葉（もみぢ）もなかりけり浦（うら）の苫屋（とまや）の秋の夕暮（ゆふぐれ）

見渡すと、花も紅葉もないことだ。海辺の苫屋の辺りの秋の夕暮れよ。

［　　　］句切れ

(2) 次の①～③の枕詞について、後に続く言葉として適当なものをそれぞれ選びなさい。

① たらちねの　② ちはやぶる　③ ひさかたの

ア 神　**イ** 衣　**ウ** 母　**エ** 光　**オ** 山

①［　　　］②［　　　］③［　　　］

(3) ①～③の表現技法の説明に当てはまるものをそれぞれ選びなさい。

① 一つの語に二つ以上の同音の言葉の意味を重ねる。

② ある語句を導く言葉で、音数や直後にくる言葉に決まりがない。

③ 特定の語を導く言葉で、主に音数が五音である。

ア 縁語（えんご）　**イ** 掛詞　**ウ** 序詞　**エ** 枕詞

①［　　　］②［　　　］③［　　　］